

# SNS 問題について

小山晴生

## 事件のきっかけ

TERRACE HOUSE 2019-20 TOKYO 編 3 8. 『Case of The Costume Incident』

木村花さんが同居人の男性に自身のコスチュームを間違えて洗濯されてしまい激昂したことがきっかけで Twitter を中心に誹謗中傷の対象に。

しばらくしてアンチは一定数いるがある程度騒ぎが収まった数週間後

TERRACE HOUSE の YouTube チャンネルが『コスチューム事件 その後』をアップデート

その後再炎上→約一週間後事件発生

## なぜ SNS の誹謗中傷が行われるようになったのか

① 芸能人が不倫などで炎上をすることになったきっかけの事件はベッキーの『ガス不倫』からではないか

ガス不倫（2016 年）以前には SNS の誹謗中傷事件は基本にない

ガス不倫後から芸能人が問題を起こすと炎上→謹慎のルートが確立

Ex) アンジャッシュ渡部、NEWS 手越

② Twitter の普及が一因ではないか

匿名性故に言いたい放題

## 芸能人は有名税で炎上してもしょうがないのか？

有名な人はちょっと遊びに行っただけでネットに目撃情報などが上がる

→自由を確実に奪われてるけど有名だから我慢しないといけない？

スポーツ選手などはミスをただけで悪いことをしていなくても炎上、家族までたたかれることも。

→これも我慢して生活しないといけないのか

## 芸能人の反応

大多数が誹謗中傷に対しての意見を投稿

Ex) ダルビッシュ・にこるん・きゃりーぱみゅぱみゅ

メンタリスト Daigo が誹謗中傷をした人に対して特定し訴訟を起こすと発言し話題に

→多くの芸能人の賛同を得る

## 対応策

身元の特定は時間がかかるものでなかなか進められるものではない

→特定までの過程の簡素化が必須

警察庁のサイバー課の強化などを進めて一層強い取り締まりをする必要がある

# SNS のプラットフォーム たかつ

プラットフォーム…システムを動作させる基盤となるハードウェア

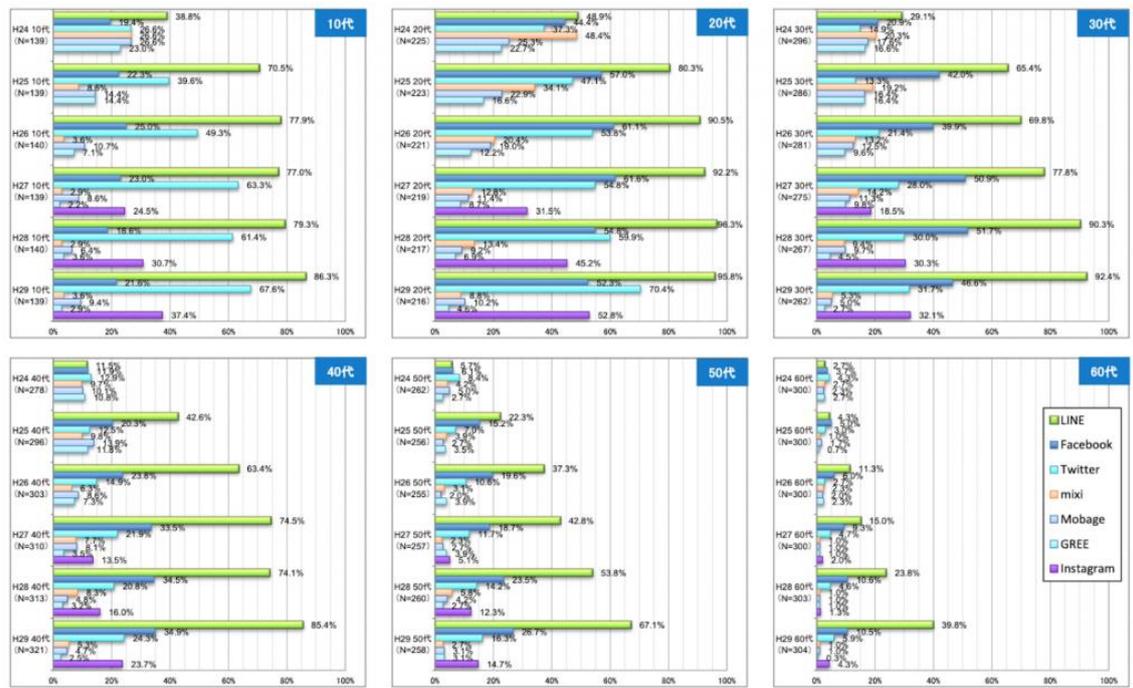
⇒SNS 関連の場合、アプリなどの SNS そのものを指す。

○よく使われるプラットフォームとは？

⇒どの年代でも LINE が 1 位！（緑色）

それに Twitter、Instagram や Facebook が年代ごとに続いていく。

“



出典：SOME MEDIA

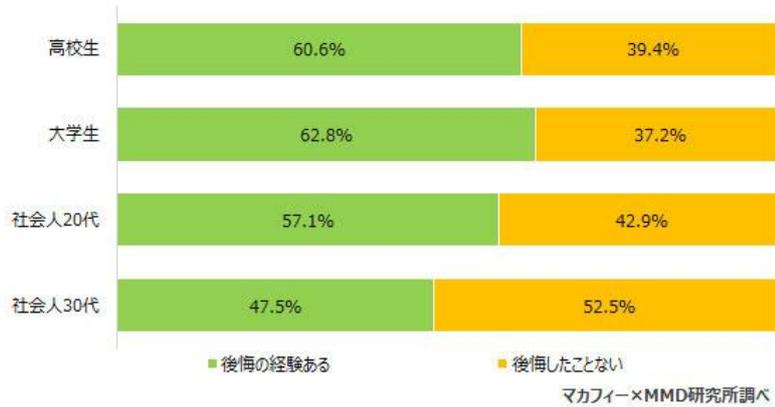
○SNS は本来、情報収集や他人の近況等を知って楽しむツール

×しかし、使い方によっては犯罪にもつながる可能性や信頼関係を崩すことも

⇒投稿者が「心の声」を投稿に反映させすぎか

SNS 投稿後に後悔した経験を調査したところ、高校生、大学生、社会人の 20 代の半数以上は後悔した経験があると答えた。(以下グラフ)

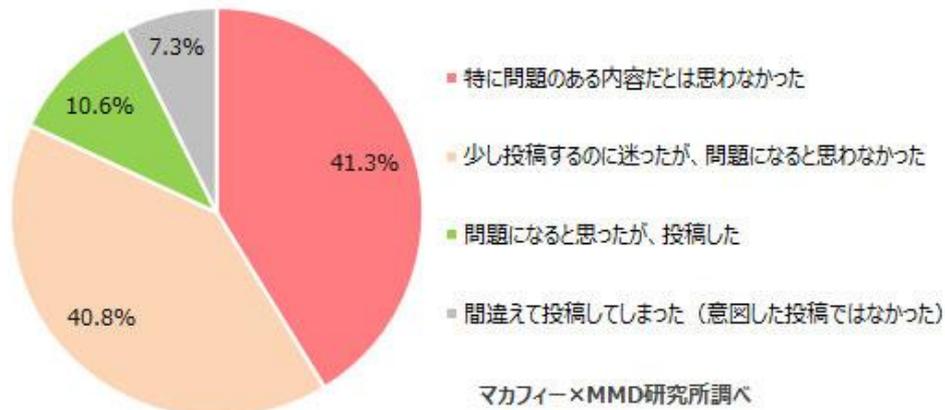
● 投稿後に後悔した経験



出典:MOBILE MARKETING DATA LABO

また、投稿が問題になったことのある経験者に、その投稿が問題になると思ったかという質問をしたところ、約 8 割が思わなかったと答えている。

● 問題になった投稿をする前の意識 (n=395)



出典:MOBILE MARKETING DATA LABO

以上の結果から、利用者の意識の低さが問題を招いていることがわかる。

## SNS 側(プラットフォーム事業者)にはどこまで責任があるのか

ネット中傷の被害にあった場合、まず誹謗中傷にあたる投稿の削除依頼をするが、例えば Twitter 社で見ると実際の削除率は 0.2% である。Twitter の報告制度が機能していないことが問題となっている。

ドイツやフランスには、ソーシャルメディア上へのヘイトスピーチを規制する法律がある。SNS 事業者が違法な書き込みを 24 時間以内に削除しなければ、最大 67 億 5000 万円の罰金を科すことができるというものである。

日本で 2001 年に制定されたプロバイダー責任制限法では、SNS 事業者が削除しなかった場合に発信者情報開示請求ができるのみ。7 月の法改正でも、開示する情報に発信者の電話番号が加えられるのみである。

→SNS 側への実質的な罰則については盛り込まれていない。

日本ではプラットフォーム側の議論が不十分である＝軽視

**表現の自由**とはどこまで認められるのか、発信する責任について一人一人が考え直さなければならぬ。